

---

# 君との距離

柊也

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君との距離

### 【Nコード】

N0859X

### 【作者名】

柊也

### 【あらすじ】

近くて遠い君との距離  
2人の主人公の気持ちを  
それぞれ描いていきます

## 1話 亮く初恋く

「お前さあ、美穂のコト好きだろ？」  
違うつて！！

「ウソっだく」

別に、好きじゃねーよ

友達は、毎日俺をからかってくる  
口では、違うと言いつつも  
目はしっかりと彼女をとらえていた

加藤美穂。

明るくて

スタイルがよく

なにより、笑顔がかわいい

クラス、いや学年で人気の女子だ

好きなんかじゃないよ…

心の中で、自分に言い聞かせた

でも、ドキドキが止まらない

今まで味わったことのない気持ち

これが「恋」なのかな…

- ある日 -

「席替えするぞー」

先生の一言で、みんなは飛び上がった  
あなたのクラスでも1人はいるだろう  
席替えになると妙にはしゃぐやつが

僕もその中の一人だった  
誰となりたい！！

とかは、別にないけど  
なんとなく楽しい

くじで決める席は緊張やワクワクでいっぱいだ

えっ！？

俺の隣は…加藤美穂！？

みんなが羨ましそうにこっちを見ている  
いろいろ、考えていると  
彼女の方から話しかけてきた

「えっと…ヨロシクね

松永…亮くん？」

「う、うん…こちらこそ」

緊張しながらの挨拶

すると、いきなり彼女は

「ねえねえ、いきなりで悪いんだけど…

亮くんって呼んでもいい？」

「好きに呼んで…いいよ」

いきなりのもので一瞬びっくりしたが  
明るい彼女なので、それほど不自然ではなかった  
人懐っこい性格で、クラスでも数人の男子を下の名前で呼んでいる  
のを知っていた

「亮くんって、彼女さんいるの？」

一瞬迷ったが、質問に答えた

「いないよ」

「ふん」

いつもより疲れた1日だった

## 1話 亮く初恋く（後書き）

もしよろしければ、続きの参考にしたいと思いますので  
感想と評価をお願いします

## 2話 美穂く運命く

休み時間のチャイムが  
学校中に響き渡る

美穂は、友人の友美に駆け寄る

「ねえねえ。亮くん、彼女いないんだって!!」

「良かったねえ。美穂」

「うん!!」

そこに、麻衣が来た

「でも、本当、美穂は亮のコトが好きなんだね」

麻衣は亮と幼馴染だ

「うん!!あたりまえじゃん」

「聞いた話によると、亮もあんなのコト気にしてるらしいよ」

「えく。そんなの噂だよ」

「つま。自分で確かめな」

―次の時間―

「ねえねえ。」

「なに？」

「亮くんって、気になる人とかいる？」

「え…いい、いないよ」

（あなたです。とか言えるわけねく）

「そっかあ……」

（やっぱり噂なのかな）

お互いがお互いを意識しあってる  
これって、運命なのかな、



## 2話 美穂〜運命〜（後書き）

評価下さい!!

### 3話 亮く好意く

ここ1週間。

美穂と話す回数はだんだん増えてきた

まあ、隣の席なんだし

あたりまえといったら

あたりまえなんだろうけど・・・

美穂は、頭も良かった

苦手な、英語を最初から全部

そして、分かりやすく教えてくれる

俺は、だんだん美穂に引き込まれていった

胸が、熱くなる

これが、「好き」とゆう気持ちなのか

今まで、一度も人を好きになったことがない  
だけど、美穂と話すたび

心が熱くなる

亮は美穂に、いつしか、好意を抱いていた

携帯の着信音

（誰からだろう？）

「美穂です」

こんにちわ(。・・・)ノ  
麻衣からメアド聞いちゃった

いきなりで、ほんとゴメンねっ。

隣の席なんだし・・・亮くんのコト  
色々知りたいなあって、思って。

迷惑だったらゴメンねm(――)m

(美穂!?)

俺はメールにマメな方ではないが、美穂は、別だ。  
すぐに、文字を打ち始める

「大丈夫v(。・・・) オッケー」

いきなりで、ビックリしたよ(^^;)   
全然、迷惑じゃないよ。

アドレス登録しといたからねo(――)o

いつでもメールして。

俺はこの時、美穂のコトを本気で、好きになりかけていた。

### 3話 亮く好意く（後書き）

感想&評価下さい

#### 4話美穂〜勇気〜

「ふう…」

（やっぱりメールって、なんか緊張するなあ…）

この数日間

メールのやり取りをしていたが、まだ緊張する

ー次の日ー

「おはよー」

「おはよー。麻衣」

「メールはどうよ？」

にやにやしながら聞いてくる

「どうって、…普通だよ」

「顔が赤くなってますぞ」

「もう!!」

ふと、廊下の掲示板に目をやる

「あっ」

「美穂？どしたの？」

「来週、花火大会だ」

「おっはー」

「友美。おはよ」

「それはそうと、誰と花火行くの？」

「え？麻衣、一緒に行こうよ」

「ゴメン。うち毎年花火は家族と見るって、決めてるんだ」

「友美は、一緒に行ってくれるよね？」

「うちは、彼氏と行くよ」

「えゝ私、一人じゃん」

「亮誘ってみなよ」

「うん。それがいいかも。美穂」

「うん…」

（直接言うのは、なんか恥ずかしいな。メールで言おう）

「お知らせです（笑）」

来週は、何の日でしょうか？

正解は、、、

花火大会だよ

麻衣も友美も家族とか彼氏と行くんだあ（ノ・。）

私、一人ぼっちです

そこで、一緒に行きませんか？

私的には、2人きりの方がいいけど。。

お返事待ってます（（〇（＾　＾）〇））わくわく

イヤだったら、別に大丈夫だからね（・|・？）

美穂は、勇気をだして  
送信ボタンを押した。。

## 5話 亮々約束（前書き）

更新遅くなりました



## 5話 亮く約束く

いつも通りの着信音

しかし、メールの内容を見た瞬間

亮は、心躍る気分になった

それは、美穂から花火大会へのお誘いだっ  
たしかも、メールには2人きりと書いてある  
すぐに、メールを打ち始めた

――――  
「ありがとう」  
――――

――――  
誘ってくれてありがとうぐ(・・・。  
俺もその日は空いてるよ  
一緒に行こうや  
――――

返信完了と。。。

――当日――

亮と美穂は夕方に、待ち合わせをしていた

「ゴメン。待たせちゃって」

「俺も、今来たところ」

美穂の姿を一目見て

亮は心臓の鼓動が早くなっているのに気が付いた

美穂の服装はピンクの可愛い浴衣だった

「どう?? 似合う?」

「すごく綺麗・・・です」

「なんで敬語なの?? あはは」

くだらない話をしながら  
花火の会場へと向かった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0859x/>

---

君との距離

2011年11月8日22時00分発行